

独自の汎用制御システムで 自動倉庫業界の改革に挑戦

ブラックボックス化されていた通信データの汎用化に成功し、
自動倉庫制御システムのリニューアル受託事業で成長。
新たに搬送機器を導入し、独自仕様の自動倉庫販売に進出する。

APT
株式会社APTの前身、日本APT株式会社は1984年の創業。大手自動倉庫メーカーの協力会社としてソフトウェア開発に携わってきたが、2009年8月、会社分割により新会社を設立、株式会社APTとして再出発した。代表取締役社長の井上良太氏は、当初は経営コンサルタントとして日本APTの経営に関与していたが、新会社設立と

ともに代表取締役に就任。自動倉庫のリニューアルという新規事業の立ち上げに踏み切った。

高いところまで積み上げた荷棚に対して、荷物をパレットに積むパレタイズロボットや無人搬送車などの搬送機器で荷物の収納・取り出しを行う自動倉庫は、省スペースの保管施設として既に40年以上の歴史がある。大手メー

カー数社の寡占状態が続き、各社が独自の制御システムを持っているため、保守やシステムの刷新についてはメーカーに依頼するほかなく、長らくメーカー主導の価格設定が維持されてきた。

「自動倉庫は、管理システム(ソフトウェア)、制御装置、搬送機器という3つの構成要素がある。それぞれを結ぶ通信データがブラックボックス化していて、ユーザーの細かい要望が反映されない上、システムの更新やメンテナンスが高額になっていた」と井上社長は説明する。

同社はこれまで700件近くの自動倉庫システムや制御装置の更新、保守サービスを手がけてきた。その実績と経験

Corporate Profile

代表取締役 井上良太
所在地 千葉県千葉市美浜区中瀬1-3
創業 1984年10月
設立 2009年8月
資本金 5億2,100万円(資本準備金含む)
従業員 60人(2019年3月現在)
<https://n-apt.com/>

「今後は制御システムから搬送機器まで、自動倉庫全体の設備刷新や新規建設の受託に力を入れていく」と語る、井上良太代表取締役社長



「STAR SYSTEM」用無人搬送車。写真左は荷棚からロボットがパレットを取り出しているところ。出荷頻度の高い商品は、写真下のような大型搬送車で大きなパレットごと運ぶ



シャトル型保管設備用シャトル。パレット用(左)と箱(ケース)用(下)があり、荷棚の間を前後・左右・上下に移動して、狭い空間に効率よく荷物を収納する

を生かし、このブラックボックス化されていた通信データの汎用化に成功。管理システムと制御装置を組み合わせた汎用制御システムを独自に開発して、制御システムのリニューアルを自動倉庫メーカーに代わって受託する事業を拡大してきた。現在、この事業が売上高の約7割を占める。

同社の汎用制御システムの導入により、仕様の変更やメンテナンスをメーカーに依存せず顧客自身ができるようになり、トラブルにも迅速に対応できる。多くの大企業で導入実績があり、日本航空株式会社の機体整備場における自動倉庫のリニューアルなど、超大型案件の獲得実績も積み重ねてきた。

搬送機器を導入し 自動倉庫の販売に進出

同社が今後、力を入れていくのが、汎用制御システムに搬送機器を加えた、自動倉庫全体の販売だ。

井上社長自ら中国のメーカーを多数見て回り、高品質・高機能な搬送機器の輸入にメドをつけた。その1つが、ネット通販などの中・大規模なEC(電子商取引)事業者向けの自動倉庫「STAR SYSTEM」だ。

出荷頻度の高い商品と低い商品のそれぞれに最適化した、形状の異なる2

種類の無人搬送車が倉庫内の通路を走行し、パレタイズロボットで荷物を積み出して、荷詰め作業場所へ運ぶ。この搬送機器は米国の大手文具通販会社、ステーブル社で採用実績があり、APTは日本国内における独占販売権を取得した。

もう一つのシャトル型保管設備は、荷棚の間を荷物の形状(箱またはパレット)に合わせた2種類のシャトルが前後・左右・上下に移動するもので、狭い空間の中で効率的な入出庫や荷捌きを可能にした。従来の自動倉庫より通路が少なく、格納効率が高いという。

現在、同社は制御システムから搬送機器まですべてを含む自動倉庫の第1号案件を手掛けており、今年中に稼働する予定。これを皮切りに、自動倉庫の新規導入、設備の刷新などの需要を開拓していく。

「わが社の強みである汎用制御システムの使い勝手の良さに加え、搬送機器の高機能性にも自信がある。その性能を積極的に訴求していきたい」と井上社長。大手メーカーの寡占市場に一石を投じる存在となるか、同社の今後が注目される。

キャピタリストの眼

自動倉庫の汎用化で 独自の地位を築く

株式会社APTは世界的に需要が拡大する自動倉庫業界を変革する注目企業です。同社のサービスを通じて物流の肝となる自動倉庫を汎用化(オープン化)することで、維持コストの抑制・利便性の向上などが期待できます。顧客からは強い支持を受けており、ベンチャーながらも既に国内の大企業や官公庁からの実績を積み上げています。井上社長はキャピタリストから転身後、泥臭く現場を駆け回り、成長を牽引してきました。幾多の困難を乗り越えてきた経験をもとに、計画している中国・アジア市場への展開などでさらに飛躍すると期待しております。



SMBCベンチャーキャピタル株式会社
投資営業第二部 次長
安田純也